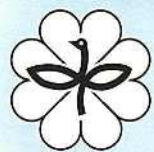


民児協だより



心をつなぐ新旭

発行者 新旭民生委員児童委員協議会

連絡先 高島市役所社会福祉課 25-8120



一斉改選を迎えます



令和7年は、民生委員児童委員としての今期の最終年になります。初心に帰って活動を行っていきたいと思いを新たにしています。

さて、令和6年はお正月から能登半島地震が発生し、その後も豊後水道を震源とする地震、日向灘を震源とする地震が発生しました。南海トラフの地震も心配されるところです。

また日本周辺の海水温の上昇により台風が強い勢力のまま上陸することが多くなり風水害が起こりやすくなっているように感じております。民生委員として防災に関する研修を受けておりますが、どの講師さんも「備える」ことが大変重要であると言われます。

「持ち出し品」をリストアップして揃えておくこと、避難所はどこかを確認することや避難の行動をいつから始めるかなど常に確認していただきたいと考えております。民生委員も

自治会などに協力して防災訓練の実施や啓発などの「備える」に努めていきたいと考えております。

令和7年12月から始まる任期の民生委員児童委員の推薦に向けた取り組みが各自治会において行われていると思いますが、新旭民児協では委員の皆さんの意見を尊重し少しでも負担感が少なくなるように努めております。民生委員になった感想をお伺いすると、「地域や社会の別の面が見えるようになった」「お年寄りや子どもたちからありがとうと言われて大変嬉しかった」などのお話を聞いております。「地域の方とお話するのが好きだ」「地域の子どもを見守り成長を助けたい」など地域や福祉に関心のある方は、自治会などからお話がありましたら、是非前向きにご検討いただきたいと思います。

「初心に帰り」と申し上げましたが、地域の皆さんにとって気安い相談相手となれるように、行政などとのつなぎ役になれるように、お年寄りや子どもさんの見守り役となれるように、可能な範囲で自主的な活動としての地域の福祉活動に協力するように努めていきたいと思っております。今年もよろしくお願いいたします。

新旭民生委員児童委員協議会 会長 大藤 耕平

令和6年 新旭民生委員・児童委員活動報告

障がい者部会

11月20日、障がい者福祉施設研修として「社会福祉法人すぎやまの家 杉山寮」の事業所見学と交流会を実施しました。

約30名の入所者がおられ障がいの程度、適性により牛乳パックを利用した紙すき材料の準備や編機の操作、遊具による時間をゆったりと過ごされておられました。施設長より施設設計の配慮やコロナ禍でのクラスター発生対策体験をお聞きし苦労された様子が目に浮かぶ思いで感動しました。「障がいをもつ利用者の一人ひとりを主人公として、作業・生活を通し、緑豊かな自然に恵まれた地域で、その人らしい生活を送れることを目指す」施設理念そのままを見学させていただいた思いです。



部会長
谷 正信

高齢者部会

6月に「介護保険に関する予算・歳出状況や利用状況等についての全体研修会」と8～9月にかけ「80歳以上の高齢者世帯を中心とした敬老訪問」に取り組みました。市内人口が減少傾向にある中、高齢化が進行し、介護保険歳出額が増加傾向にあることなどを理解しました。「元気で長生き」の高齢者人口が増加することを願います。



部会長
藤本 太平治

児童部会

「コロナ」後、こども園各種行事（入園式・卒園式・運動会・その他）への参加・協力については以前のようなニーズがなく、今年度テーマに掲げた「小中学校及び各園との交流」はグラウンド草刈りなど行事準備に参加させていただく程度となりました。

一方、こども園や小中学校教職員等の懇談会への参加・市の教育関係者との連携を行い、高島市こども若者応援ベース「みらくる」を訪問し情報共有、連携していくこととしました。また、部会構成員の近隣地区にて登下校見守り活動を実施すると共に防災・防犯上の課題を把握し関係者との情報共有を図りました。



部会長
一井 清太

主任児童委員

主な活動である毎月の「赤ちゃん訪問」は、地域の民生委員児童委員さんに協力していただきながら訪問しています。令和6年は、新旭駅エリアの新しいお家への訪問が多く、核家族化の進行を実感しています。また、外国人宅への赤ちゃん訪問もあり、言葉の壁にぶつかりながら、笑顔を第一に身振り手振りで子育て情報を伝え、孤立を防ぐために子育て支援センターへ遊びに行かれるよう促しています。

その他、あいさつ運動、小学校の懇談会や奉仕作業、青少年育成に関する活動、子ども家庭センターのケース会議等、子育て関係機関の活動に参加し経験させていただきながら、地域の子育てに少しでもお役に立てたらと思っています。



伊庭 美和



川島 恵子

赤ちゃん訪問対象者数
(令和6年/新旭) 計60件

1月…4件	2月…2件	3月…3件	4月…4件	5月…8件	6月…4件
7月…1件	8月…7件	9月…4件	10月…7件	11月…7件	12月…9件

広報部会

5月12日、「民生委員の日」の啓発活動を、Aコープパネス前で行いました。お買い物に来られた方にクリアファイルとポケットティッシュをお渡ししました。「あれ～？なんであんなこんなところにいるん？」と声をかけられる方がいて、声をかけられた委員さんが「民生委員してるんで…今日は啓発！」「ほうかいな、ご苦労さんで…」こんなあたたかいやりとりがありました。

広報誌「心をつなぐ新旭45・46号」を6月・2月に発行しました。



副会長
上原 里子

マキノ民児協との交流会

高島市の民生委員児童委員協議会（略して民児協）は市内6民児協が1年に1度他町の民児協と交流する機会を持ちます。交流会では講演・実習などで自己研鑽を図ったり、各々の民児協での推進事業や問題点等を話し合い、見習うべきことや改善への方向性を見だし、個人的には日常活動のヒントを見つけたりする機会にもなります。

今年度は10月10日（木）マキノ民児協さんと交流会を持ちました。マキノ町内の小学6年生と中学1年生全員に「マキノ子ども民生委員」を委嘱し子どもたちと高齢者の方々が普段の生活の中で自然に声を掛け合ったりお互いが見守り合い元気なマキノ町にして行こうということでした。

子どもたちが高齢者を見守る・高齢者も子どもたちを見守る。ややこじつけになりますが、登下校の子どもたちに玄関先で「おはようさん！」「お帰り～」と声をかけてみませんか。1週間も続けると癖になってしまいます。元気の源になりますよ。



副会長
小林 正則

研修

◆10月18日（金）

- ・阪神淡路大震災研修（防災への理解・新旭独自研修）
人と防災未来センター見学
北淡震災記念公園・野島断層保存館
当時淡路市室津の民生委員 桂さんの講演

◆5月23日（木）

- ・第1回高島市民児協連主催 全員研修（視覚障がい者理解）
ガリバーホール
講師／安田 知博氏（尺八奏者・音訳指導員）

◆7月24日（水）

- ・第2回高島市民児協連主催 全員研修（認知症理解）
高島市民会館
講師／信友 直子氏（テレビディレクター・映画監督）

◆9月3日（火）

- ・県民児協 民生委員児童委員1期目フォローアップ研修
栗東 さくら

◆新旭民児協 定例会にて

- ・介護保険制度について（高齢者部会主催）
- ・高島市の障がい者支援について（障がい者部会主催）



人と防災未来センター



桂さんの講演

民生委員児童委員活動に寄せて

民生委員児童委員として2年が過ぎました。その間、各種研修会の参加・福祉施設訪問・他地区委員との交流会・高齢者宅訪問・小学生の登下校見守り等々、自分の参加できる範囲で活動させていただきました。

地域の皆さんとのふれあいや貴重な体験・経験をさせていただき中々きめ細かく対応できているかどうか判りませんが、任期まで相談・つなぎ役として活動して行きたいと思っています。

高齢者部会 桂田 喜美代



民生委員児童委員に就任させていただいてから2年が過ぎようとしています。私で大丈夫なのか、迷惑をかけるのではないかと感じていました。活動する中で自分に何ができるのか自信がありませんでした。1人暮らしの高齢者さんの訪問、児童の見守り、障がい者施設への訪問などいろんなことを経験させていただき、少しずつですが自信につながっていきました。高齢者さんへの訪問では、「待っていたよ」「次はいつ来てくれるの」と声をかけていただくと、とても嬉しくやりがいを感じました。

任期満了まであと1年ですが、よい相談相手・話し相手と思ってもらえるように頑張りたいと思います。

障がい者部会 吉田 里美



民生委員児童委員の役をお引き受けして、ほぼ2年が過ぎました。1年目は「顔を知ってもらう」ことを目標に担当区域を回りましたが、見ず知らずの人間がいきなり訪問したにもかかわらず、ほとんどのお宅で拒否されることもなく対応していただいたことに、驚くと同時に大変ありがたく感じました。

「民生委員」に対する人々の信頼と期待を知らされた思いがします。今後、少しでも誰かの役に立つよう活動したいと思っています。

児童部会 渡邊 慶二



他団体との連携(一部)

- ◆「命のバトン」更新・新規配布 ⇒ 高島市役所社会福祉課
- ◆ 赤い羽根共同募金 ⇒ 高島市社会福祉協議会
- ◆ 歳末贈呈品見守り事業
- ◆ クリーンアップ作戦 ⇒ 新旭青少年育成学区民会議
- ◆ ふくしまつり ⇒ 新旭住民福祉協議会

秋晴れの文化の日、ほおじろ荘にてふくしまつりが開催され、民生委員も一角のスペースをもらって啓発しました。ご家族で来られる方が多いので、啓発品には、びわっ湖ミンジーの「ハンドタオル」と「クリアファイル」を用意しましたが、お昼過ぎには配布完了。5月の啓発活動と合わせて400名様の手が届いたことになります。



編集
後記

11月末、私用で訪れた郵便局で「話してよかった。と言ってもらえるように」の啓発ポスターが目にとまり、民生委員もそうでありたいと背筋がピンと伸びる気がしました。